

山行報告書

神戸勤労者山岳会

1. 参加者

L 千賀、SL 山蔦、池田、西、矢古宇、入江

2. 山域／ルート

西穂高岳 西尾根

3. 交通手段

自家用車

4. 行動記録 <入山日 2022年4月2日 下山日 2022年4月3日>

4月1日 19:00 神戸出発→0:30 道の駅上宝(仮眠)

4月2日 4:00 起床→4:50 車移動⇒5:00 新穂高登山者用駐車場(準備)→新穂高登山指導センター5:55→7:05
穂高平小屋→9:40 1946M→12:30 2343M→15:15 2738M ジャンクションピーク→17:00 西穂高岳山
頂 17:20→19:00 独標→西穂山荘 19:55 テント泊

4月3日 西穂山荘 10:00→10:45 新穂高ロープウェイ西穂高口駅 11:15⇒11:40 新穂高温泉駅→温泉・食事→
帰神

5. 山行中の問題点・事故に繋がる要因

a) 予定のルート・日程で行動出来たか？

以下の理由により1日目に登頂し西穂高山荘まで行動した。

翌日の天候不良が予想されていること。雪がしまっており予定より早く行動できていること。

日没までに山頂まで到達できる見込みであること。夜まで無風晴れの予報であること。

山頂からの下山はヘッドライトでの行動が可能であること。

b) 事故に繋がりそうな要因(ヒヤリハット)が発生したか？

なし

c) パーティーで、山行中の事故に繋がる要因につき、山行後検討したか？

メンバー間で装備重量に4kgの違いがあった。

重量が重いメンバーに足攣りと行動に遅れがあったため、今後軽量化するための方法を検討した。

6. その他、ルートに関する情報・気がついた事など記す

P1P2とも雪の状態が良ければザイル不要。

P1から先もコルやピークなど4~5人用テントを張れるあところが数カ所あり。

<感想>

西穂高のバリエーションルートの代表格、西尾根に行ってきました。

4月の落ち着いた雪は、予想外に踏み抜きもなく我々は順調に高度を上げることが出来ました。

千賀リーダーの判断で1日で抜けることとなり、突然ゴールが西穂山荘まで伸びましたがくじけることなく最後まで頑張った自分に乾杯！

次は、3月の中旬頃までのラッセル地獄を楽しみたいルートでした。

美しい笠ヶ岳に感謝です。

イヤッホ～ 二日と一杯！かんぱ～い！

ヤマツタ

西穂高岳は、なかなかお天気に恵まれない山の一つだった。雪の季節に北アルプスに入るのは、贅沢なことだとメンバーに感謝。

笠ヶ岳や焼岳、錫杖岳、雪をかぶった山々を眺めながら西尾根を登る。雪の状態がとてもよく、アイゼンやピッケル、バイルがよく効き、高度をあげられた。他のパーティーは入っていなかったけど、しっかりトレースがついていた。助かりました。私たち6人だけが西尾根を西穂高岳にむけすすんでいく。広がる雪をまとった北アルプスの山々に囲まれ、静かな時間を過ごす。しあわせだなあと思う。限られた者しか見ることが出来ない風景に、また出会えた。テント泊一式を持った雪山は、かなり厳しく、今回も、歩けるかな？という不安はあったけど、軽量化を徹底して参加した。途中、

仲間に荷物を持って貰いながら、2000mに近い高度を登り、14時間も歩く事ができた。くたくた(笑) 〆〆〆〆になったけど心地よい達成感と風景は、なにごとにもかえられないものだ。同行して下さったみなさん、ありがとーごさいます。

西

出発前、天候を心配する声もあったが、初日の天候は晴れ、2日目も朝9時頃までは晴れ、その後は粉雪とホワイトアウトが予想された。2400Mのテン場からの撤退は容易であり、条件が良ければ抜けられる可能性もあり迷わず出発した。

出発後、しっかりとしたトレースに助けられ順調に高度を稼ぐ。高度差1900Mを知ってか知らずかメンバーからは今日中に頂上まで抜けてしまおうとの元気な声上がる。山荘のビールがちらつく山蔭SLから「抜けるなら足並みをそろえよう!」との声をもらい、遅れのあったメンバーの荷物を分担しさらに進む。2150Mで1人の足が攣り登頂が危ぶまれるも、モンゴル岩塩・マグネシウム・シャクヤク肝臓湯の投与により改善。出発から6時間30分の12:30に当初予定したテン場に到達した。大休止をしつつ、本日中に抜けるか否か考える。今夜の天気は安定している。そして無風で気温もこの時期にしては低く雪もしまっている。トレースも残っている。今から進むと日のある西穂高岳頂上にはたどり着けるだろう、そこまで行けば後はヘッドライトでも行動できる。明日の予報での登頂は危険だろう。西穂稜線での行動を考えれば、晴れた夜のヘッドライトの方が断然安全と考え、本日に突破することを決定した。SLから今日は2400Mまでの水分しか持参していないとの的確なコメントを受け、皆の水残量を確認。かろうじて足る状況を確認し出発した。早速第一岩峰のお出ましである。斜度はそこそこあるがザイルが必要なほどでもなくそのまま突破。西穂高岳頂上までのスカイラインや槍ヶ岳・笠ヶ岳・焼岳など一望の景色に感動！仲間と一緒に登れることに喜びを感じた。その後も景色を楽しみながら快適な雪稜を登っていく。テントが張れそうなスペースは所々にある。テント装備一式を持っているのでいつでもビバーク可能だ。そのことが気持ちにゆとりを持たせる。一部のメンバーの足取りが重くなってきているが、ゆっくりではあるが歩みは止まっていない。日のある内には頂上まで届きそうだ。遠くに見えていた第二岩峰が近づいてくる。さてどこを登るんだろう？と思いつつさらに足を進めた。とりつきまで行ってみるとしっかり鉄線が引かれており、リッジを右側に巻きにトラバースしてから雪壁を上るルートがしっかりわかる。もし鉄線が雪で隠れていたら行き詰まり兼ねないところかもしれないが、一部でピナクルにかけたお助けスリングを使用し、ノーザイルで突破した。頂上は目前。稜線を歩く人の姿がよく見えている。快適な雪稜を登り日没1時間30前の17:00西穂高岳頂上に到着し、メンバーと握手で登頂を喜び合った。腹ごしらえ水残量の確認、ヘッドライトの準備、日没に供えウエアリングの調整を行い、今後の行動予定打合せし頂上を後にした。ここからは快適な登山道。これまでのルートとは違い安定しており安心だ。行動開始からおよそ14時間。20時前に西穂山荘へ到着した。

標高差1900M14時間行動の雪山バリエーションルートを、感動を共有できるメンバーとともに山行きができることに感謝しかありません。皆様ありがとうございました。また山に行きましょうねー！じゃあまた明日ミズノでねー！！

千賀

雪の西穂高岳は3度行っているが、バリエーションルートは初めての挑戦。テント場の予定であった標高2400m手前までとても元気で、予定よりも早く到着したので、このまま山頂まで行っちゃえーとイケイケゴーゴー状態だった。しかし2400mを越えてから出てきた第一核心部の第一岩峰を過ぎたあたりから、足が重くなり息も切れ切れとなり、テント泊装備の重さと、アイゼン、冬靴をはいた重たい足を持ち上げる負担に、高度もあがってきたこともあり、どんどん辛くなっていった。第一岩峰手前からは斜度もキツくなり4つ足歩行になることも増え、山頂までがととてもとでも遠かった。それでも樹林帯を抜けてからの景色は素晴らしく、思わず「きて良かったー」と声が出た。第2核心部の第二岩峰もロープを出すことなく、順調にすすみ、第二岩峰を終えたところからそれまでずっと先頭を行ってくれていたリーダーが、先頭を譲ってくれたので、私が最初に山頂に到着させてもらった。あまりに過酷で登頂できた時は思わず山頂の道標にしがみついていた。山頂から西穂山荘までの一般登山道は途中より日が落ちてヘッドデン下山となったが、西尾根に比べるととても歩きやすく、やっぱりバリエーションルートは違うなあ実感した。

とても過酷だったけど全員無事に下山でき、本当に良かった。みなさま、ありがとうございました！

入江

笠ヶ岳や錫杖岳を背にしつつ、天候にも恵まれ、空の蒼、雪の白、そして木々の翠の北アの壮大な景色を満喫しな

がらの山行で、とても気持ち良く登っていくことができました。

重量装備を背負っての雪山アルパインは経験がほとんどなく不安も大きかったものの、核心部ではメンバーの手厚いサポートをいただいて、何とかピークに立つことができました。

今回の山行、自身にとっては西穂高岳の初登頂でもあり、とても感慨深いものがありました。

とても貴重な経験をさせていただきました。ありがとうございました。乾杯!!

池田

西穂高西尾根。メンバーの皆さんのおかげで登ることができました。また、ご迷惑を多々おかけし申し訳ありませんでした。そして、本当にどうもありがとうございました。

去年の4月に西穂に行った際にそういうルートがあることを知り、今回の例会に申し込んだ。軽量化！と何度も言われていながら、装備を買い替えることなく、減らせば何とかなるだろう---との思い込み。出発前の計量でまったく軽量化になっていないことを知り。歩き始めて早々にペースも落ち、ばて、足もつり。日曜の天候悪化予報から、西尾根途中でのテント泊が西穂山荘まで抜ける行程に変更となり、ペースダウンで皆の足を引っ張る私は、結局、共同装備のテントとフライを持っていたこととなり。それでも歩くので精いっぱい。皆が、景色が、山々が---と歓声を上げて、チラと目で追うだけ。全く余裕がなく、第1岩峰、第2岩峰もやっと。17時ぎりぎり何とか西穂山頂に。が、目的の西穂山荘まではまだまだ先。フラフラになりながら漸く山荘にたどり着けた。雪山のテント装備縦走経験はほぼゼロだったこともあり、色々わかっていないことが多かった。

最後に、皆さん、本当に色々ありがとうございました。

矢古宇



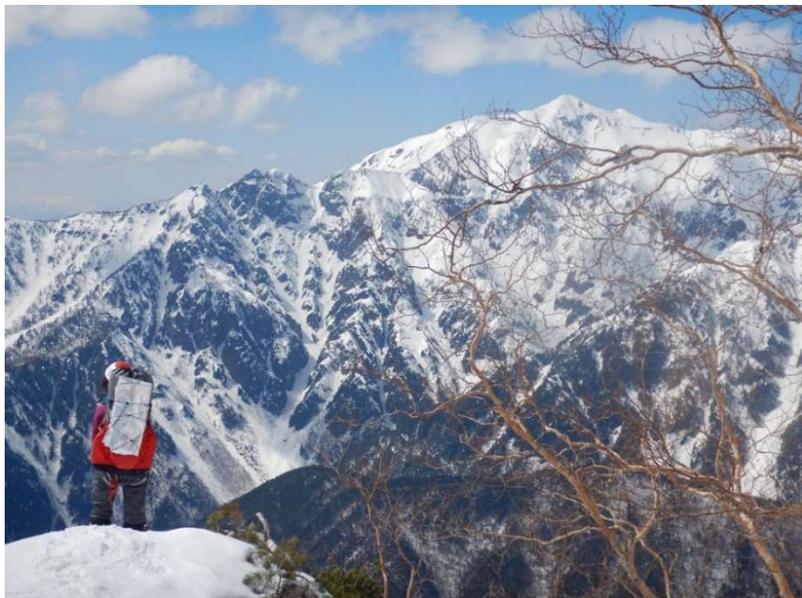
4/2 11:17 2200m 樹林帯を抜けると絶景が



4/2 12:30 2343m 小ピーク手前の急斜面



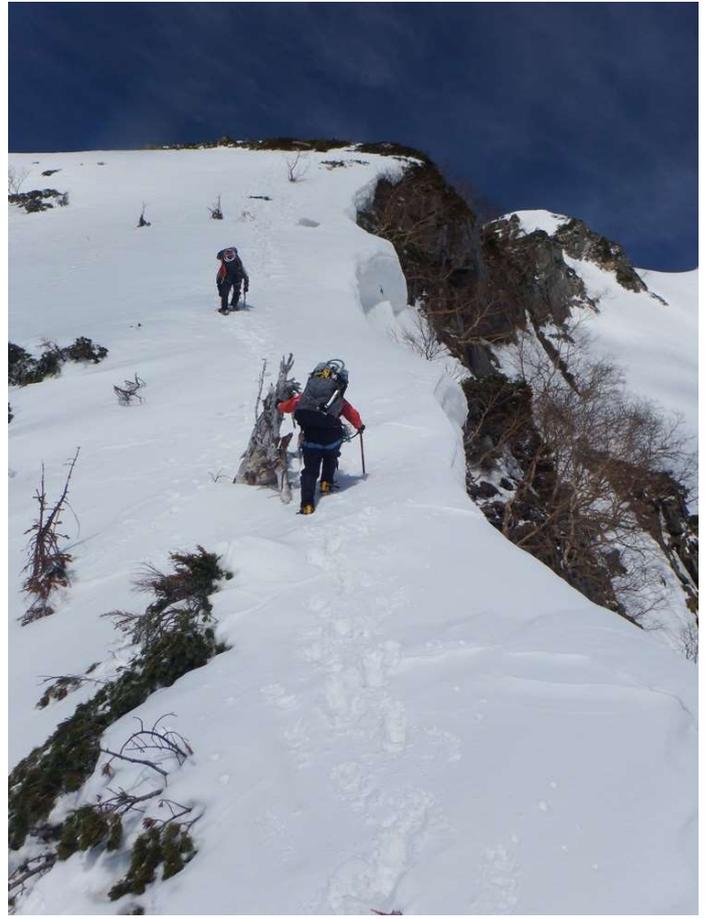
4/2 13:00 第一岩峰を左から巻きはじめる



4/2 13:20 第一岩峰を通過すると笠ヶ岳がドーン



4/2 13:45 2550m 雪庇と岩峰



4/2 13:55 雪庇が続く



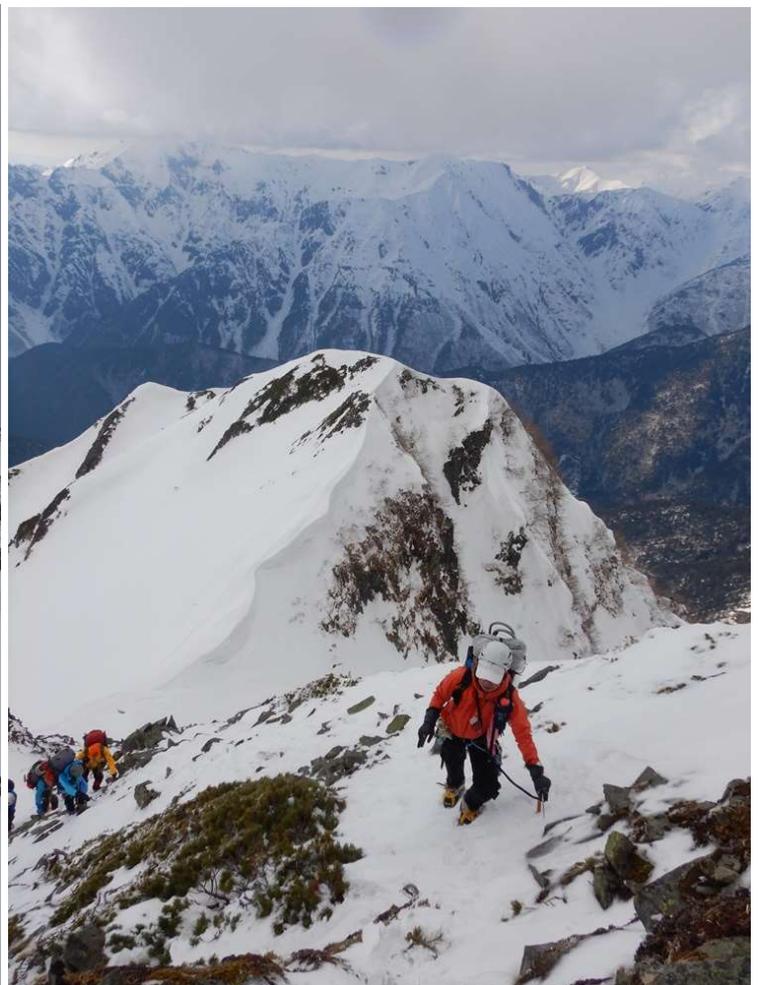
4/2 15:10 北西尾根とのジャンクションピークを過ぎた 2738mのピーク



4/2 15:20 目指す西穂高岳山頂がはっきり見えてきた



4/2 15:35 目の前には第2岩峰



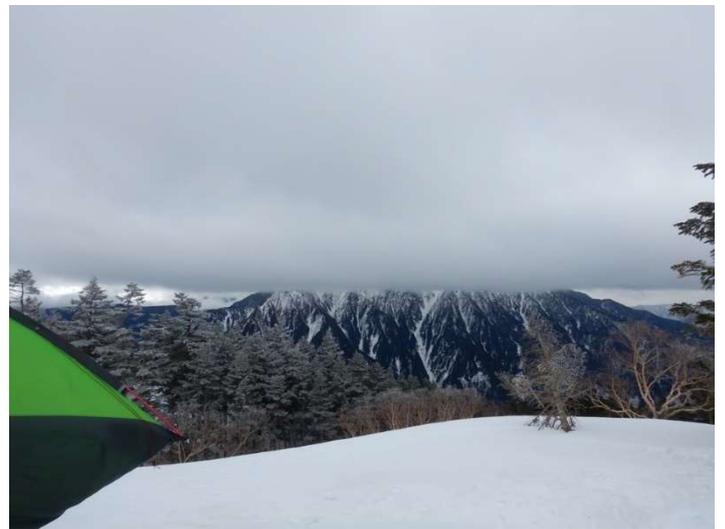
4/2 16:00 第2岩峰を無事通過



4/2 17:00 過酷な登りを終えて、ついに山頂へ



4/2 18:55 すっかり日の落ちた独標にて



4/3 9:30 朝は遅めの行動開始。予報通り下り坂に

報告者 千賀 2022年4月3日